学校だより

学校教育目標
～生き生き日枝っ子～

令和４年１月７日
１月号
横浜市立日枝小学校

「森は海の恋人」

～人の心に木を植える～

校長　住田　昌治

「気仙沼の海には、多くの生き物が戻ってきました。牡蠣の養殖も始めます。魚や海草がたくさん住む豊かな海です。川にはたくさんの鮭も泳いでいましたよ。それも、もう２か月も前からです。どうしてだと思いますか？それは、森を育ててきたからなのです。」

東日本大震災後にそう力強く話されていたのは、特定非営利活動法人「森は海の恋人」理事長の畠山重篤さんです。2011 年３月 11 日、火の海となった気仙沼が、何度もテレビで映し出されました。元通りの海に戻るには、どれだけの年月がかかるのだろうと誰もが思ったことでしょう。しかし、畠山さんが熱く語られる姿は、悲観的ではなく、喜びと自信に満ちあふれているように見えました。

「森は海の恋人運動」は、小・中学校の教科書でも取り上げられ、全国に拡がっています。 海の環境を守るには、海に注ぐ川、川に注ぐ森を育てなければだめだということで、30 年以上も前から海で仕事をする漁師が、森に木を植える運動をしているのです。そして、海－川－森がどうつながっているのかを、子どもや地域の大人にフィールドワークを通して指導してこられました。様々な環境問題が複雑に絡み合って深刻化しつつある現在、本質は人の心の中に森をつくることだと訴え、川の流域に住んでいる人の意識を変えるために継続的に取組が行われてきたのです。

〈植樹＝森と海のつながり〉

自然は、全てつながっているわけですから、総合的に学ぶ必要があるのですが、従来は、縦割で自然を捉えており、森・川・海・田・畑等は別々の範疇に置かれていました。しかし、17 年前「森は海の恋人」をヒントに、京都大学が京都大学フィールド科学教育センターという組織をつくり、「森里海連環学」という新しい概念の学問ができました。自然のつながりを学ぶことによって、人のつながりを知ることになるのです。そして、人の心に変化をもたらし、社会を変えていくことになるのだと思います。これからは、バラバラではなく総合的な見方をすることによって、人とは何かということを発見し、世の中を変えていかなければなりません。人の意識が変わらなければ、どんな課題も解決されないと言うことなのです。課題解決の鍵は、一人一人の人の心の中にあるのです。

本校においても、普段あまり考えることのない自然の循環、気づきとつながりに焦点を当て、「森にあって海を、海にあって森」をという総合的な視点をもって、生きとし生けるものすべての命を思える持続可能な社会の創り手を育んでいきたいと考えています。

今年も、日枝っ子が生き生き学ぶためにご協力よろしくお願いいたします。